

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

自然がいっぱい みんなが笑顔の中島小 ～トンボ園・にこにこ畑を利用して～

一宮市立中島小学校

今年度の実践

(1) トンボ園を利用した活動について

トンボ園を利用して、できるだけ自然と親しむことができるようにしている。低学年児童は、虫を捕まえたり、池でメダカを捕まえたりして遊んでいる。高学年児童は、写生会の時に絵を描いたり、理科の時間に観察したりしている。また、外部講師を招いてトンボ教室やメダカ教室を行った。



(2) にこにこ畑を利用した栽培活動について

学年ごとにサツマイモやタマネギなど野菜を決め、年間を通して計画的に栽培を行っている。

その中でも、サツマイモは、全校児童で苗を植えたり、収穫をしたりしている。畝作りのときのマルチシートかけの作業や収穫前のつる切りでは、児童だけでなく保護者のボランティアも参加していただいている。また、苗植えや収穫のときには、ペア活動(1年生と6年生・2年生と4年生・3年生と5年生)を取り入れている。



(3) 行事と関連付けた栽培活動について

① 一人一鉢運動

毎年、運動会や卒業式・入学式の会場を飾るためにサルビアやパンジーを育てている。運動会の本部前の真っ赤に咲き誇るサルビアや、卒業式や入学式の会場いっぱいに置かれた色とりどりのパンジーは、児童や保護者にとって思い出に残るようである。



② ニコニコふれあいバス感謝祭

にこにこ畑で収穫した野菜を、毎年中島小学校で行われる「ニコニコふれあいバス感謝祭」で学校に来場した地域の方々に渡している。準備の段階では、サツマイモの重さを量ったり、枝から枝豆の房をとったりしながら、児童は楽しそうに取り組んでいる。感謝祭当日も「農薬を使っていないから安心です！」と来場者に声をかけていた。

野菜栽培や収穫活動を通して、地域の方とふれあうこともでき、児童は楽しんで取り組んでいる。



③ 親子いも掘り体験会

学校での収穫が終わってから、毎年「親子いも掘り体験会」を開催している。児童は、お父さんやお母さんからいもを上手に掘るコツを教えてもらいながら、取り組んでいた。児童にとって、ペア学年で行ういも掘りとは、また別の楽しみになっている。



実践の成果

児童のさまざまな活動への取り組みの成果を、事後のまとめや感想などから把握してきた。感想には「自分が野菜を育てるようになってから、野菜が好きになった」「1年生の子たちとサツマイモの苗を植えた時に『大きないもができますように』と手を合わせていたのがかわいらしかった」「『ニコニコふれあいバス感謝祭』で、地域の方が『上手に作ったね』とほめてくれたのがうれしかった」などがあり、活動について楽しんで取り組んでいたことがわかった。

また、学年が上になると「トンボ池の水が減っています」と教えてくれたり、「そろそろタマネギを植えますか？」と次の作業に意欲を見せたりする児童が多数出てくる。これは、継続的に実践している成果だと考えられる。

今後の課題

中島小学校では、このほかにも「ヤゴ救出作戦」「緑のカーテン実験」「米作り」「野草の天ぷら作り」「原木しいたけ菌打ち体験」などさまざまな実践を行っている。ただたくさんの活動が組まれており、それぞれの活動について、児童はじっくり考えて取り組んだり、活動について振り返ったりすることがあまりできていない状況もある。

今後は、「楽しかった」という感想だけで終わるのではなく、「次はこうしてみたい」「こうやったらどうだろう」「なぜこうなったのだろう」というような深まりのある実践にも取り組んでいきたい。そのためには、活動を精選することも視野に入れて検討する必要があると考えている。児童の実態や地域の特色に合わせたカリキュラムになるように、今年度の実践を基にE S Dカレンダーを見直し、栽培活動や地域との連携に関する具体的な活動内容の改善を図っていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）